

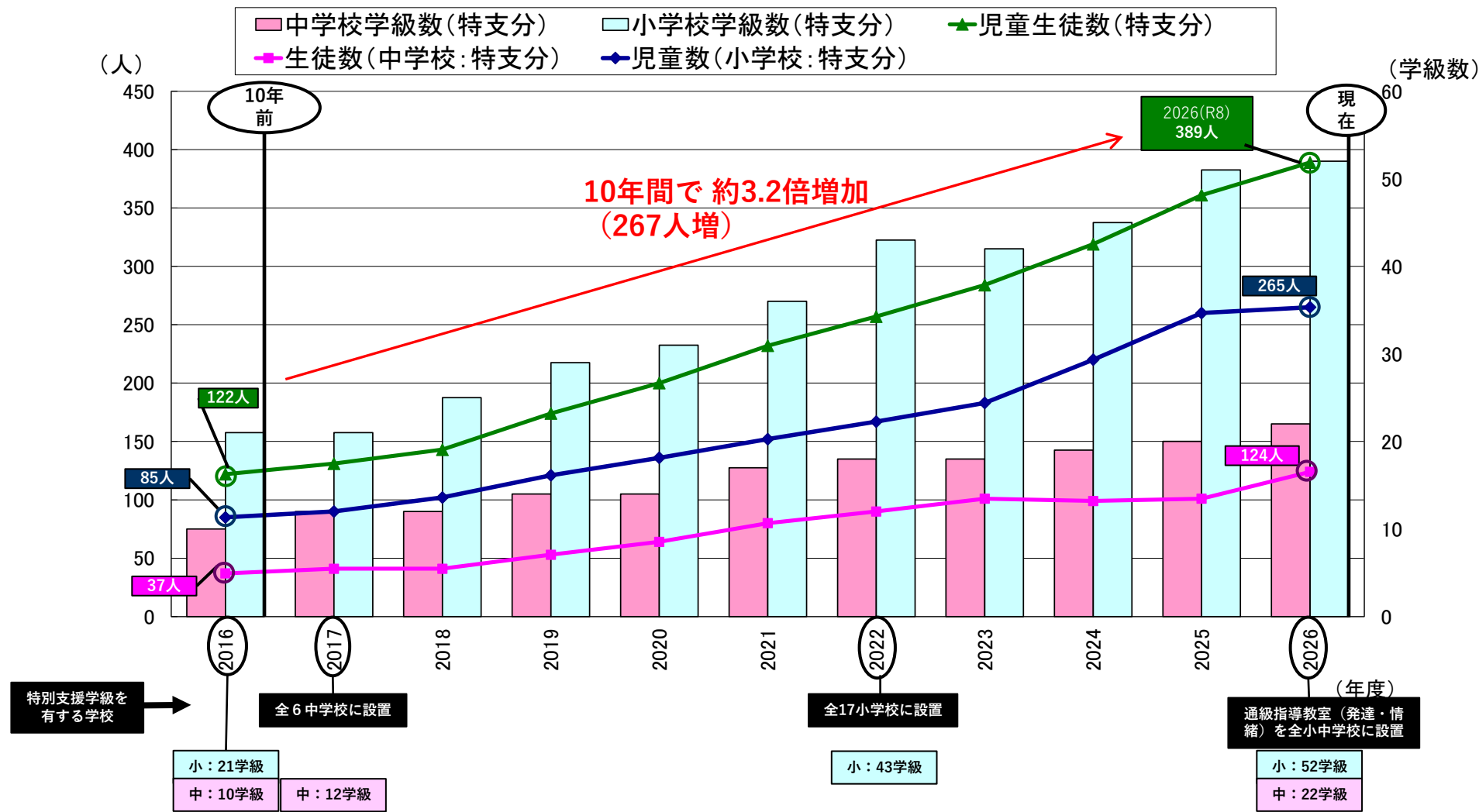
# 多面的な実態把握に基づく 課題の整理について

(次回 第2回審議会以降の内容)

## 学校施設・運営面からの教育課題の例

| 教育課題（例）            | 新座市の実態・課題 |
|--------------------|-----------|
| ① 特別支援教育、インクルーシブ教育 |           |
| ② 不登校児童生徒への支援      |           |
| ③ 個別最適な学びの推進       |           |
| ④ 教職員の負担軽減/働き方改革   |           |
| ⑤ 通学路、通学距離、通学手段    |           |
| ⑥ 学区の不整合（分散進学）     |           |
| ⑦ 部活動の地域展開         |           |
| ⑧ 施設の老朽化・維持・修繕コスト  |           |
| ⑨ 他の公共施設との共用化・複合化  |           |
| 等                  |           |

# 特別支援学級の児童生徒数の推移



・新座市では、2017年度までに全中学校、2022年度までに全小学校に特別支援学級を設置している。2026年度には、通級指導教室（発達・情緒障がい）も全小中学校に設置した。

・特別支援学級に在籍する児童生徒数は、2016年度に児童数85名、生徒数37名であったが、それ以降増加し続け、2026年度には児童数265人、生徒数124人と、それぞれ3.1倍、3.4倍に増加している。

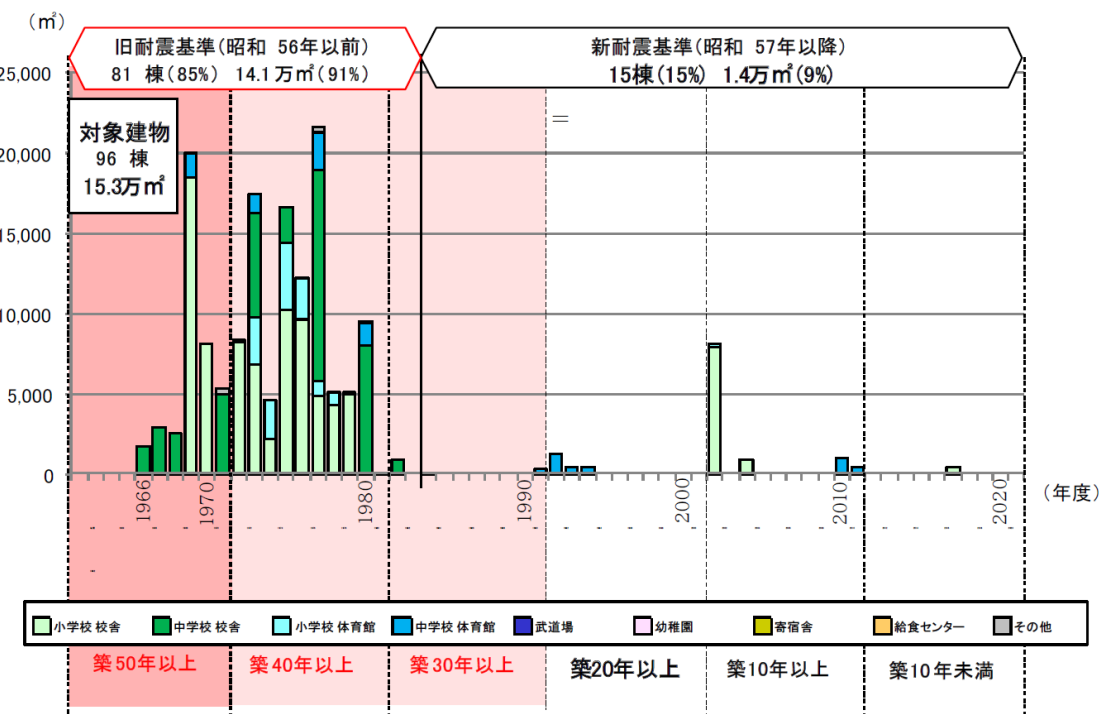
● 通常学級の児童生徒数が減少傾向にある中、特別支援学級の児童生徒数は急増傾向にある。

● 児童生徒一人ひとりの多様性を尊重した教育が求められている中で、特別支援学級のニーズは継続することが考えられる。

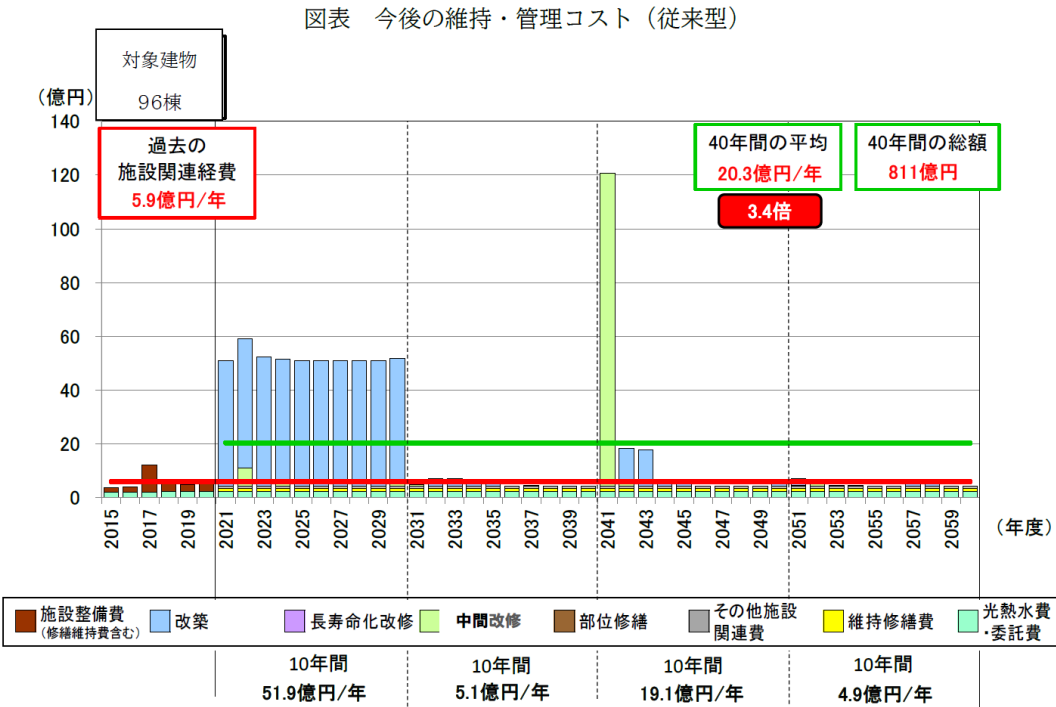
※ 2026年度まで実績値（毎年5月1日）

# 築年別整備状況と今後の維持・更新コスト

## ●築年別整備状況



## ●今後の維持・更新コスト（従来型の施設整備を続けた場合）



## ●長寿命化のコストの見通しと長寿命化の効果（試算ケースの比較表）

### ■試算ケースの比較表

| 試算ケース         |                                                | 直近<br>10年間の平均 | 40年間の平均 | 40年間の総額 |
|---------------|------------------------------------------------|---------------|---------|---------|
| 従来型の<br>ケース   | 築後40年で改築<br>・改築後20年目で中間改修を実施。                  | 51.9億円        | 20.3億円  | 811億円   |
| 長寿命化型<br>のケース | ・築後60年目までに長寿命化改修工事を実施、その後15年目に中間改修、30年目で改築を実施。 | 29.2億円        | 36.3億円  | 1,452億円 |
| 効果額           |                                                | ▼22.7億円       | 16億円    | 641億円   |